

DC9評価項目	評価ソフト/フォント	評価基準
1. 情報量	DRC (ドット・レシオ・カウンター)	<p>DRCの測定結果が、1ページあたり19%未満であること。</p> <p>&lt;対象外&gt; 写真や図など、文字以外が主体のページ。</p>
2. タイポグラフィ	UCDAフォント	<p>特にユーザーが認識できないと不利益が起きる可能性が高い情報については、6ポイント未満の文字を使用しないこと(ルビ、脚注などを除く)。</p> <p>8ポイント未満の文字に、UCDAフォントを使用すること。</p> <p>&lt;注意事項&gt; 創作的表現上の意図をのぞいて、フォントの変形は、原則として不可とする。</p> <p>&lt;推奨項目&gt; 適切な文字組みを行うこと(横書きでUCDAフォントを使用する際には行間は1.5行以上を確保して、1行45~48文字以内で組むことを推奨する)。</p>
3. 色彩設計	UDing	<p>UDingでの危険色表示を行った場合に、危険色に該当するものがないこと。ただし、危険色表示があった場合でも、以下の場合は例外的に認証される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の伝達において、色彩が副次的である場合(例:人物イラストで、特に意図もなく、服の色が違う、など)。</li> <li>情報の伝達において、色彩だけが判断の材料とならず、文字や形状も判断の材料として補完されている場合(例:インデックス部分が色分けされているだけでなく、「注意事項」など記載がある)。</li> <li>色分けの部分に、境界線が設けられ、色弱の方でも境界を認識できる工夫がなされている場合。</li> </ul> <p>&lt;対象外&gt; モノクロのページの場合。</p> <p>&lt;自主評価項目&gt; 図版やグラフ、表組みなどにおいて、情報を認識する上で十分なコントラストを確保すること。</p>